

## 令和4年茨城県内重要港湾の取扱貨物量（速報）について

### ～茨城港の取扱貨物量が過去最高～

令和4年の茨城港（日立港区、常陸那珂港区、大洗港区）、鹿島港の取扱貨物量（速報）が取りまとめられましたので、下記のとおり公表いたします。

重要港湾全体の取扱貨物量は、コロナ禍前の水準には至っておりませんが、コンテナ取扱貨物量につきましては、世界的な物流の混乱等が緩和傾向にあることで回復基調にあります。

なお、本件のポイントは以下のとおりです。

- ・日立港区では、東京ガスの自社浚渫工事等を考慮した計画的な原料調達により、LNG等の輸入量が減少した一方で、常陸那珂港区においては、北米や東南アジアにおける鉱山需要の高まりから産業機械の輸出が好調であったこと、大洗港区においては、生活必需品の輸送が堅調であったこと等から茨城港の取扱貨物量が過去最高を記録しました。
- ・しかし、鹿島港においては、コンビナート企業の大規模定期修理があったことにより、重要港湾全体では前年比98.4%の92,407千トンとなり、コロナ禍前の水準には至りませんでした。
- ・コンテナ取扱貨物量は、常陸那珂港区においては、前年比110.1%の46,710TEUと世界的なコンテナ輸送の需給逼迫が緩和傾向にあり、船腹スペース不足が解消したことなどから、取扱貨物量が増加し、コロナ前の水準までほぼ回復。一方、鹿島港においては前年比84.4%の11,812TEUと大規模定期修理や定期航路スケジュールの遅延による寄港率の低下の影響で減少しました。

#### 記

#### (1) 取扱貨物量

(単位：千トン)

区分	令和3年	令和4年	対前年比	増減の主な理由
日立港区	7,402	5,893	△1,508 (79.6%)	LNGの輸入減少
常陸那珂港区	15,224	16,368	1,144 (107.5%)	産業機械の輸出増加
大洗港区	14,676	15,369	693 (104.7%)	生活必需品の需要が堅調
<b>茨城港計</b>	<b>37,301</b>	<b>37,630</b>	<b>329</b> <b>(100.9%)</b>	
鹿島港	56,617	54,777	△1,840 (96.7%)	大規模定期修理による減少
<b>計</b>	<b>93,918</b>	<b>92,407</b>	<b>△1,511</b> <b>(98.4%)</b>	

※数値の単位未満は四捨五入しているため、合計の数値と内訳の数値が一致しない場合があります。

#### (2) コンテナ取扱貨物量

(単位：TEU)

区分	令和3年	令和4年	対前年比	増減の主な理由
常陸那珂港区	42,423	46,710	4,287 (110.1%)	物流の混乱が緩和傾向による増加
鹿島港	13,992	11,816	△2,177 (84.4%)	大規模定期修理や定期航路スケジュールの遅延による寄港率の低下による減少
<b>計</b>	<b>56,415</b>	<b>58,526</b>	<b>2,111</b> <b>(103.7%)</b>	

※TEU：Twenty-foot Equivalent Unitsの略。20ftコンテナ1個を1TEUとして計算。

※数値の単位未満は四捨五入しているため、合計の数値と内訳の数値が一致しない場合があります。

## 令和4年茨城県内重要港湾の取扱貨物量(速報)について

本表については、数値の単位未満は四捨五入しているため、実際の数値と一致しない場合がございます。

### 1 総括

令和4年の重要港湾2港(茨城港、鹿島港)の取扱貨物量(速報)は、92,407千トン(前年比△1,511千トン、98.4%)となった。

### 2 茨城港

・茨城港(日立港区、常陸那珂港区、大洗港区)の取扱貨物量は、常陸那珂港区、大洗港区が増加となり、取扱貨物量が37,630千トン(前年比329千トン、100.9%)で過去最高となった。

#### (日立港区)

・日立港区はメルセデス・ベンツの輸入や日産自動車の北米向け輸出など、完成自動車の輸出入拠点・東京ガスのLNG輸入などエネルギーの供給拠点となっている。  
・令和4年は東京ガスの自社浚渫工事等を考慮した計画的な原料調達により、LNG等の輸入量が減少し、取扱貨物量が5,893千トン(前年比△1,508千トン、79.6%)と減少した。

#### (常陸那珂港区)

・常陸那珂港区は北関東自動車道と直結していることや、広大な開発空間を有していることなどの利点を活かし、コンテナ、RORO貨物に対応する一大輸送拠点として発展している。  
・令和4年は、資源高が追い風となり、北米や東南アジアにおいて、鉱山機械の需要拡大から産業機械の輸出が好調であったこと等により、取扱貨物量は16,368千トン(前年比1,144千トン、107.5%)となり過去最高を記録。  
・定期コンテナ航路では、韓国・中国との直航便のほか、東京・横浜港で接続する国際フィーダー航路が就航している。令和4年は、中国のロックダウンやコロナによる物流の乱れ等の影響はあったものの、徐々に船腹スペースが回復したことなどにより、コンテナ取扱貨物量は、46,710TEU(前年比4,287TEU、110.1%)となった。

#### (大洗港区)

・大洗港区は首都圏と北海道を結ぶフェリー基地として発展しており、商船三井フェリーが、大洗-苫小牧間を週12便体制(1日2便 ※日曜日を除く)で運航している。  
・令和4年は、昨年引き続き生活必需品の輸送が堅調であったこと等により、新型コロナウイルスの影響を大きく受けることなく、取扱貨物量は、前年並みの15,369千トン(前年比693千トン、104.7%)となった。

### 3 鹿島港

- ・鹿島港は、鹿島臨海工業地帯に立地する企業の原材料や製品の海上輸送基地として、重要な役割を担っている。
- ・令和4年は、コンビナート企業の大規模定期修理があったことにより、取扱貨物量は54,777千トン(前年比△1,840千トン、96.7%)となった。
- ・定期コンテナ航路では、平成28年に開設された韓国との直航便のほか、東京・横浜港で接続する国際フィーダー航路も週2便就航している。令和4年のコンテナ取扱貨物量は、コンビナート企業の大規模修繕や定期航路スケジュールの遅延が発生し寄港率が低下した影響により、11,816TEU(前年比△2,177TEU、84.4%)となった。

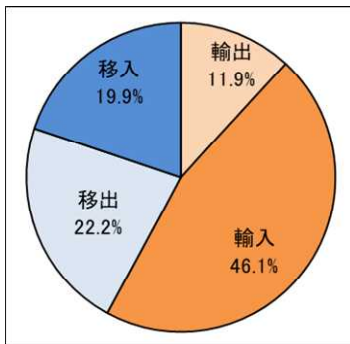
【概要版】令和4年茨城県内各港の港勢（速報）  
（令和4年1月～12月）

本表については、内訳毎に数値の単位未満は四捨五入しているため、合計の数値と内訳の数値が一致しない場合があります。

重要港湾全体

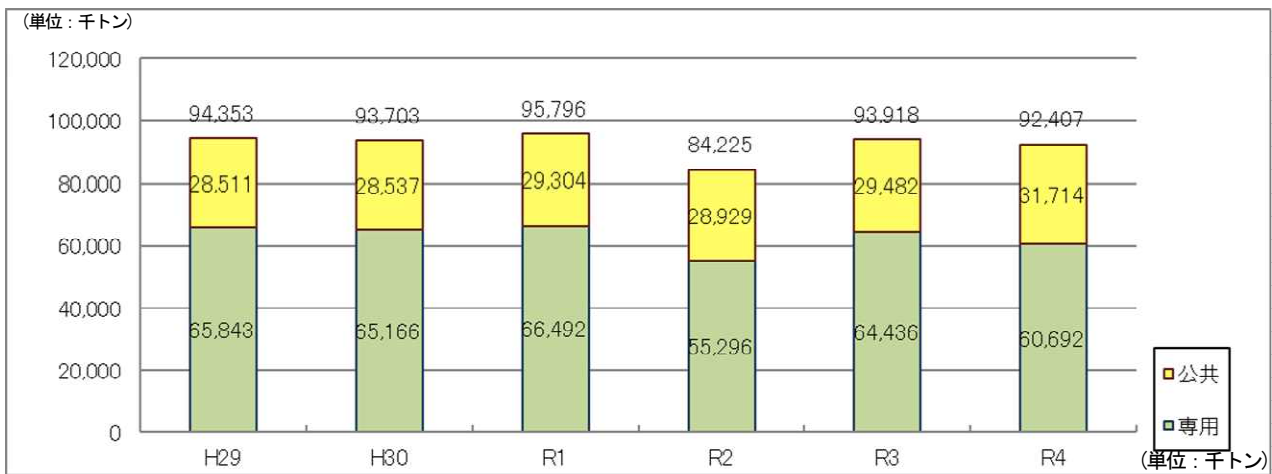
- ・取扱貨物量：92,407千トン（前年比 Δ1,511千トン、98.4%）
- 外貨：53,527千トン（前年比 Δ1,296千トン、97.6%）
- 内貨：38,880千トン（前年比 Δ216千トン、99.4%）

【重要港湾輸移出入別】



※輸出入とは「海外との取引」を指し、移出入とは「県外との取引」を指す。

【重要港湾公専別】



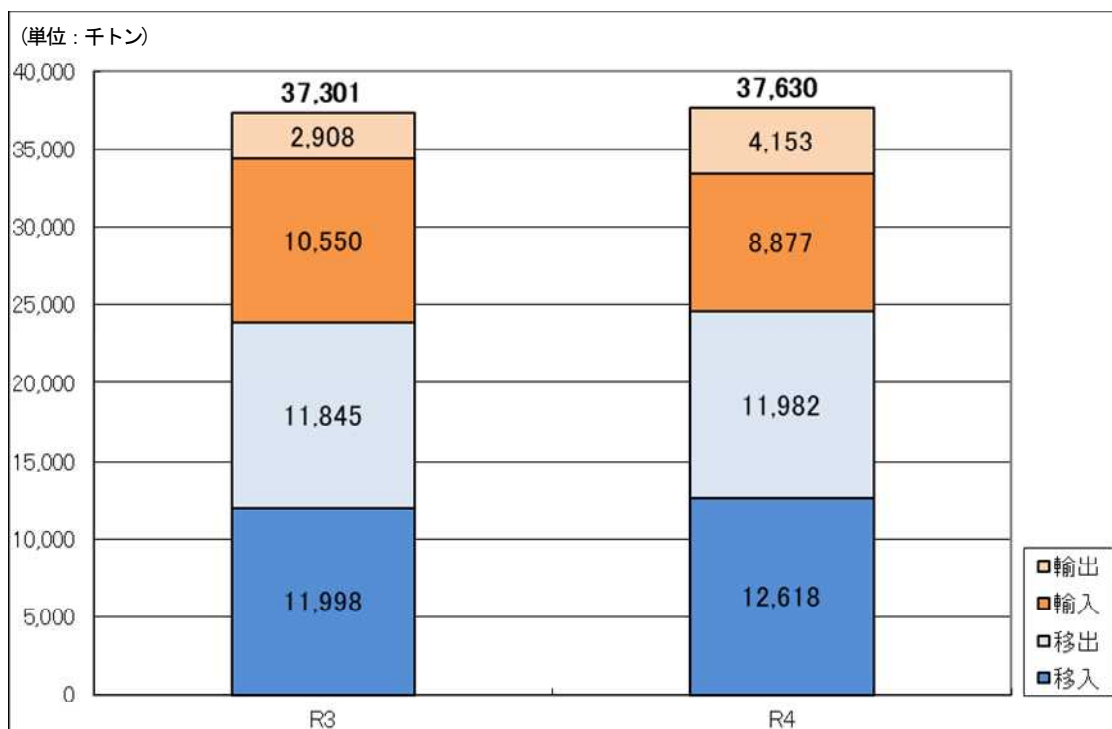
区分		平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年 (速報値)
茨城港	日立港区	6,613	6,265	6,787	7,394	7,402	5,893
	常陸那珂港区	13,634	13,806	12,846	14,156	15,224	16,368
	大洗港区	13,912	13,902	14,537	14,174	14,676	15,369
	茨城港計	34,159	33,972	34,170	35,724	37,301	37,630
鹿島港		60,194	59,731	61,626	48,501	56,617	54,777
重要港湾計		94,353	93,703	95,796	84,225	93,918	92,407

茨城港

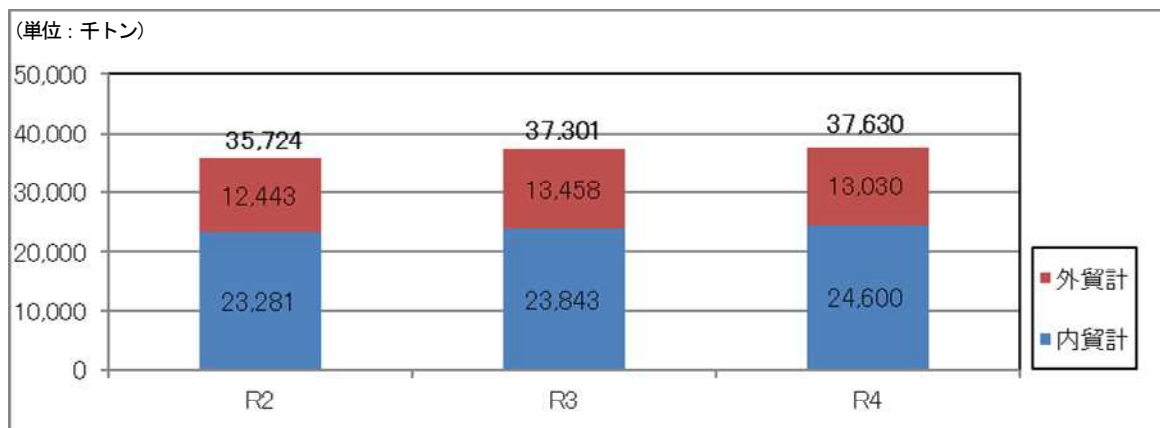
- 取扱貨物量：37,630千トン（前年比 329千トン、100.9%）

外貿 : 13,030 千トン (前年比  $\Delta$  428 千トン、96.8%)  
   輸出… 4,153 千トン (前年比 1,245 千トン、142.8%)  
   輸入… 8,877 千トン (前年比  $\Delta$  1,673 千トン、84.1%)  
 内貿 : 24,600 千トン (前年比 756 千トン、103.2%)  
   移出… 11,982 千トン (前年比 136 千トン、101.2%)  
   移入… 12,618 千トン (前年比 620 千トン、105.2%)

【取扱貨物量（輸出入・移出入別）】



【令和2年～令和4年 貨物量の推移（合計及び外貿・内貿別）】

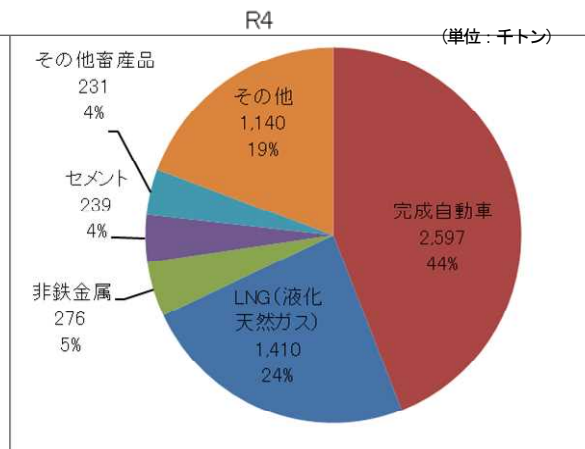
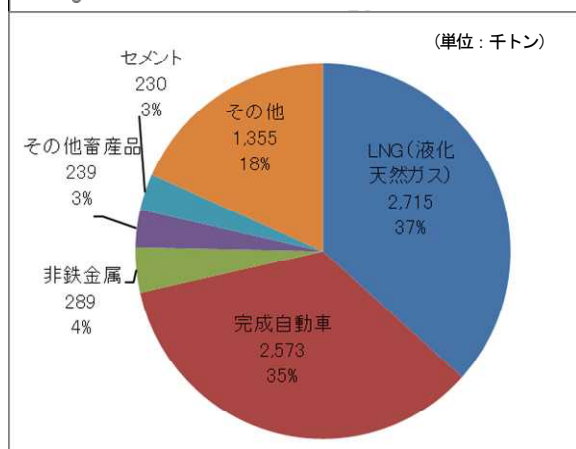
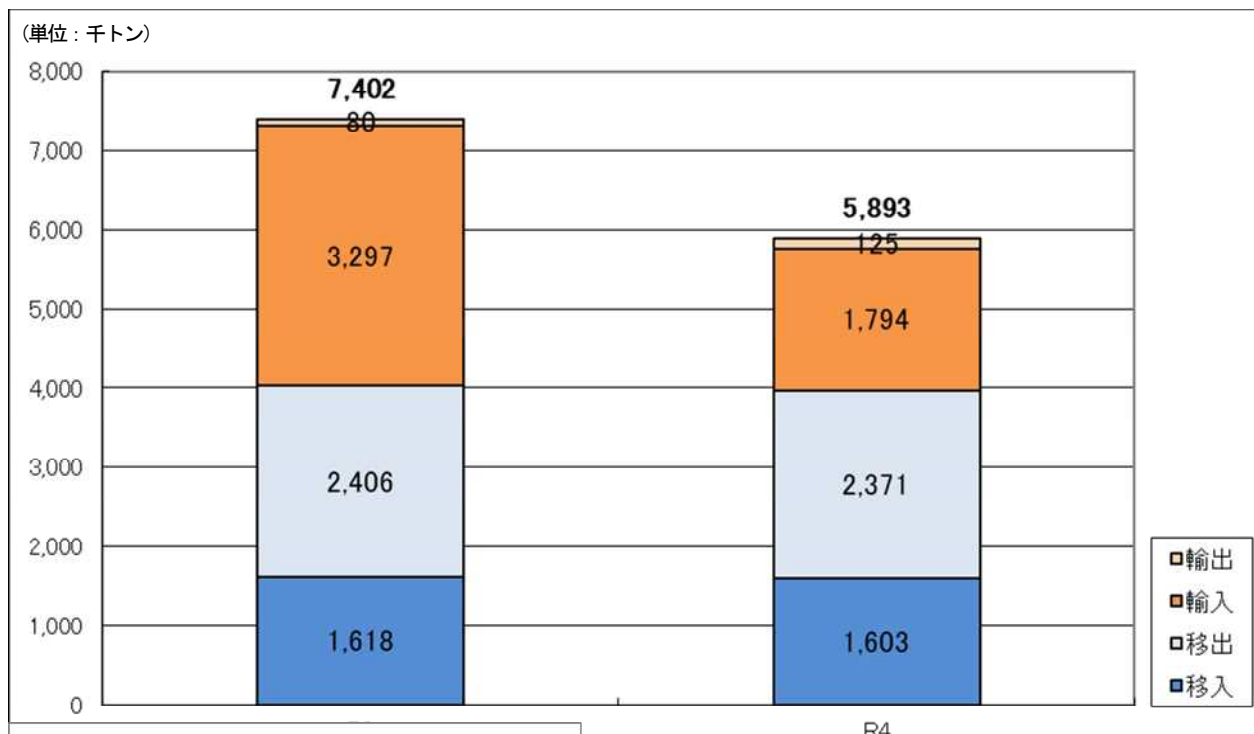


茨城港日立港区

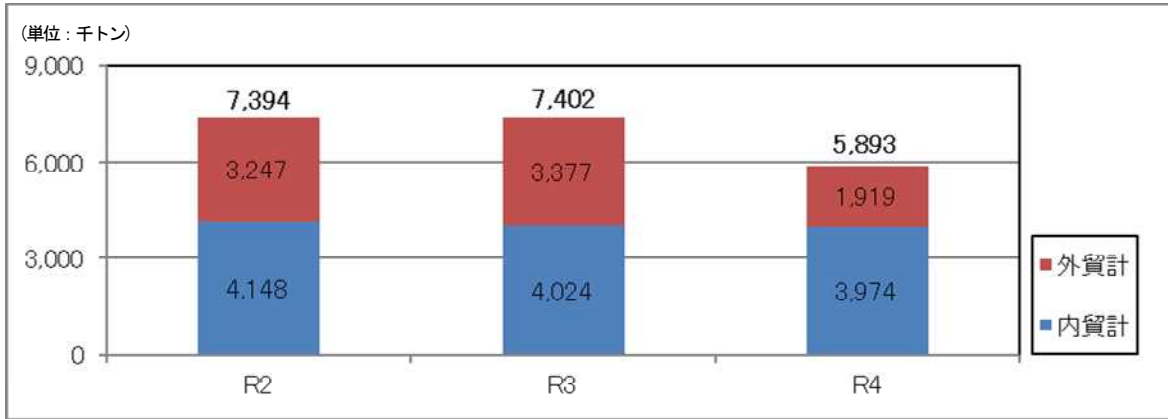
○取扱貨物量 : 5,893 千トン (前年比  $\Delta$  1,508 千トン、79.6%)  
   外貿 : 1,919 千トン (前年比  $\Delta$  1,459 千トン、56.8%)  
   輸出… 125 千トン (前年比 45 千トン、155.6%)

輸入…	1,794千トン	(前年比	△ 1,503千トン、	54.4%)
内貿	: 3,974千トン	(前年比	△ 50千トン、	98.8%)
移出…	2,371千トン	(前年比	△ 35千トン、	98.6%)
移入…	1,603千トン	(前年比	△ 15千トン、	99.1%)

【取扱貨物量（輸出入・移出入別）】



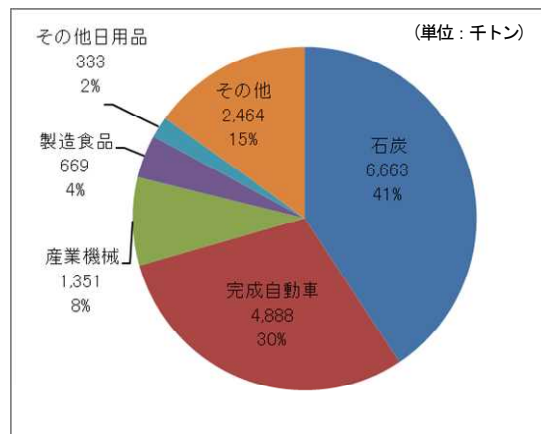
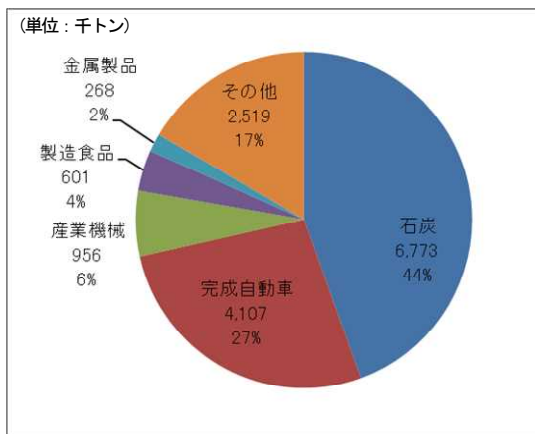
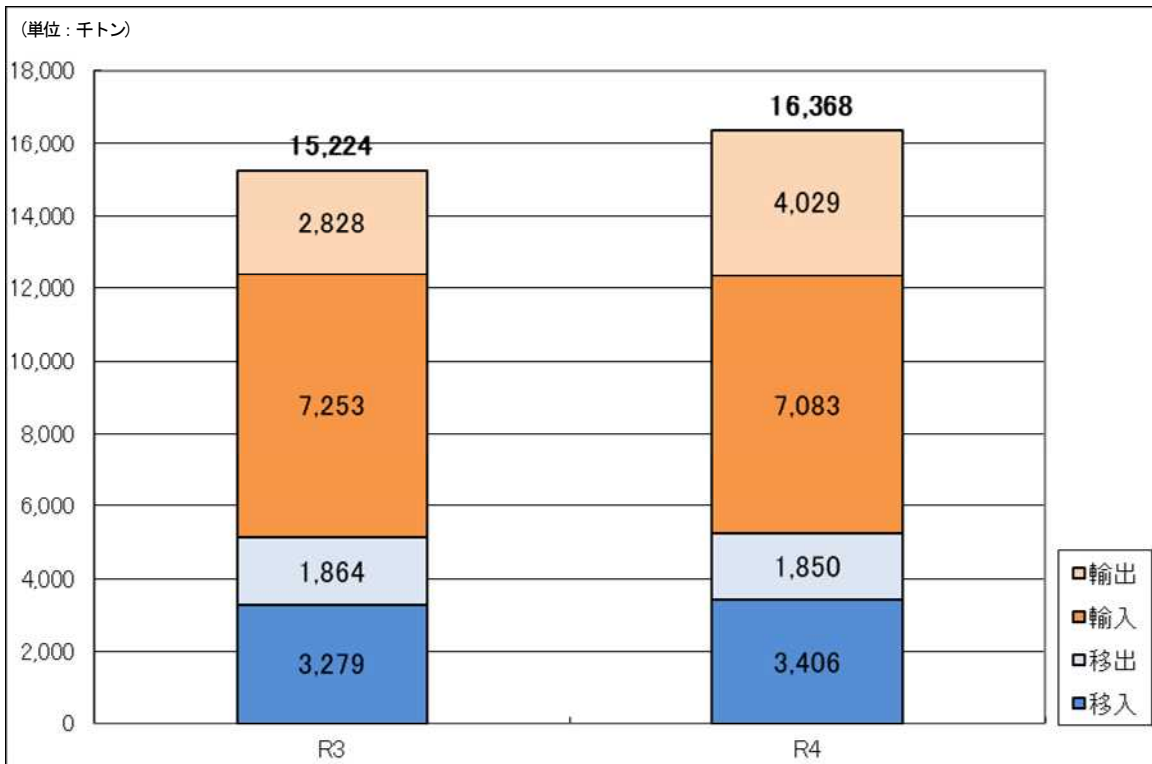
【令和2年～令和4年 貨物量の推移（合計及び外貿・内貿別）】



**茨城港常陸那珂港区**

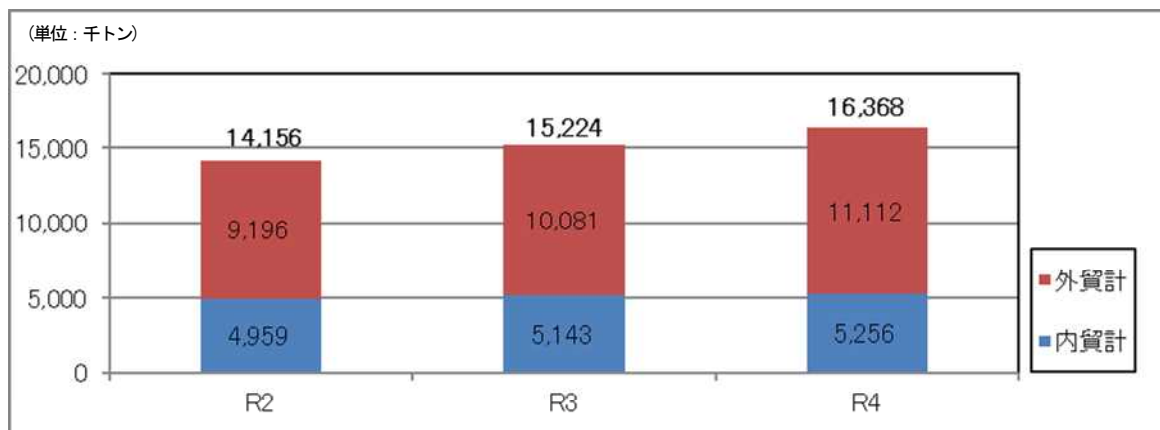
・取扱貨物量	: 16,368 千トン	(前年比	1,144 千トン、107.5%)
外貿	: 11,112 千トン	(前年比	1,031 千トン、110.2%)
輸出…	4,029 千トン	(前年比	1,201 千トン、142.5%)
輸入…	7,083 千トン	(前年比	△ 170 千トン、97.7%)
内貿	: 5,256 千トン	(前年比	113 千トン、102.2%)
移出…	1,850 千トン	(前年比	△ 14 千トン、99.2%)
移入…	3,406 千トン	(前年比	127 千トン、103.9%)

【取扱貨物量（輸出入・移出入別）】





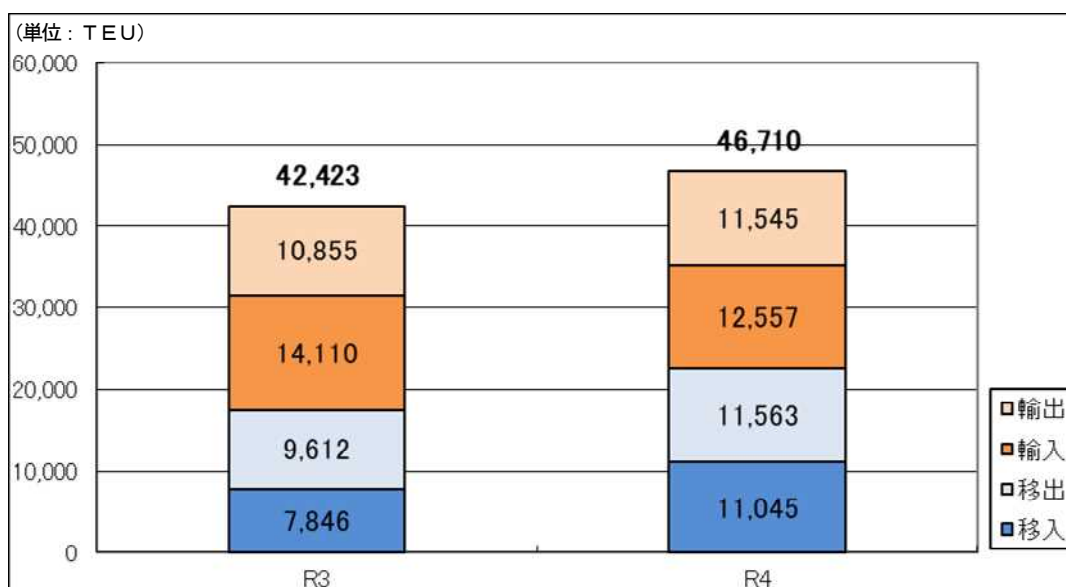
【令和2年～令和4年 貨物量の推移（合計及び外貿・内貿別）】



○コンテナ取扱数量

コンテナ取扱数量	: 46,710TEU	(前年比	4,287TEU、	110.1%)
外貿	: 24,102TEU	(前年比	△863TEU、	96.5%)
輸出…	: 11,545TEU	(前年比	690TEU、	106.4%)
輸入…	: 12,557TEU	(前年比	△1,553TEU、	89.0%)
内貿	: 22,608TEU	(前年比	5,150TEU、	129.5%)
移出…	: 11,563TEU	(前年比	1,951TEU、	120.3%)
移入…	: 11,045TEU	(前年比	3,199TEU、	140.8%)

【コンテナ取扱個数(輸出入・移出入別)】



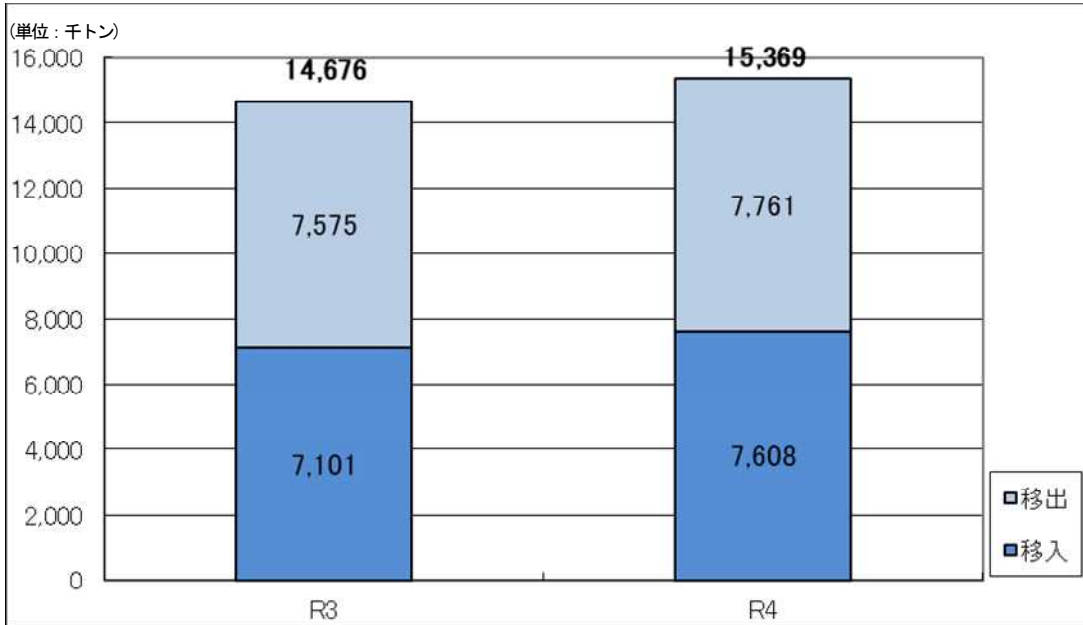
※ TEU=20フィートコンテナ換算

※ 空コンテナを含む。

**茨城港大洗港区**

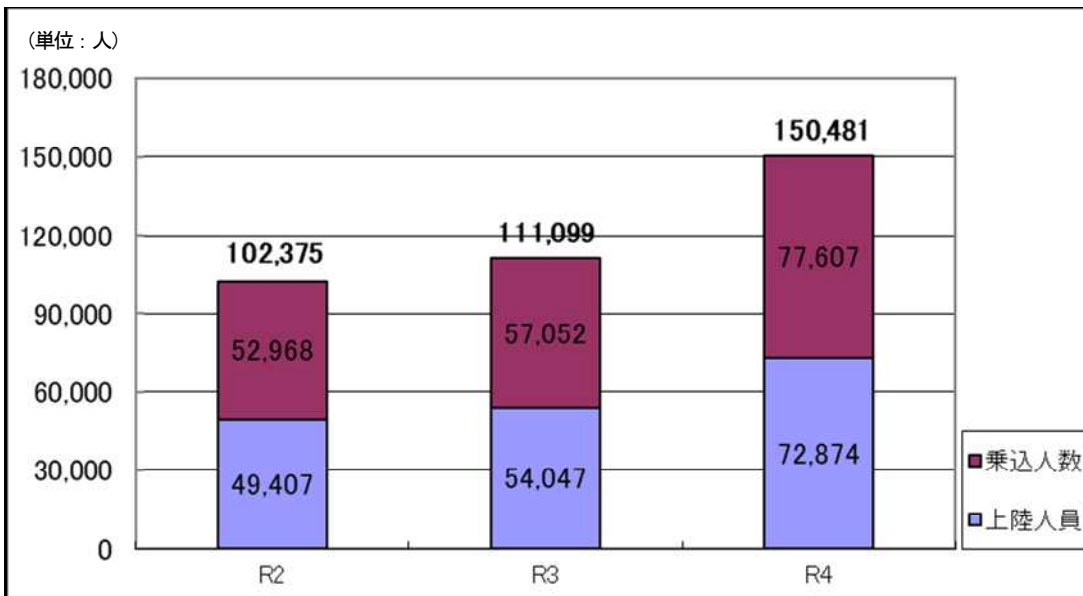
○取扱貨物量：15,369千トン（前年比 693千トン、104.7%）  
 移出… 7,761千トン（前年比 186千トン、102.5%）  
 移入… 7,608千トン（前年比 508千トン、107.1%）

【取扱貨物量（移出入別）】



○船舶乗降人員数：150,481人（前年比 39,382人、135.4%）  
 乗込人員… 77,607人（前年比 20,555人、136.0%）  
 上陸人員… 72,874人（前年比 18,827人、134.8%）

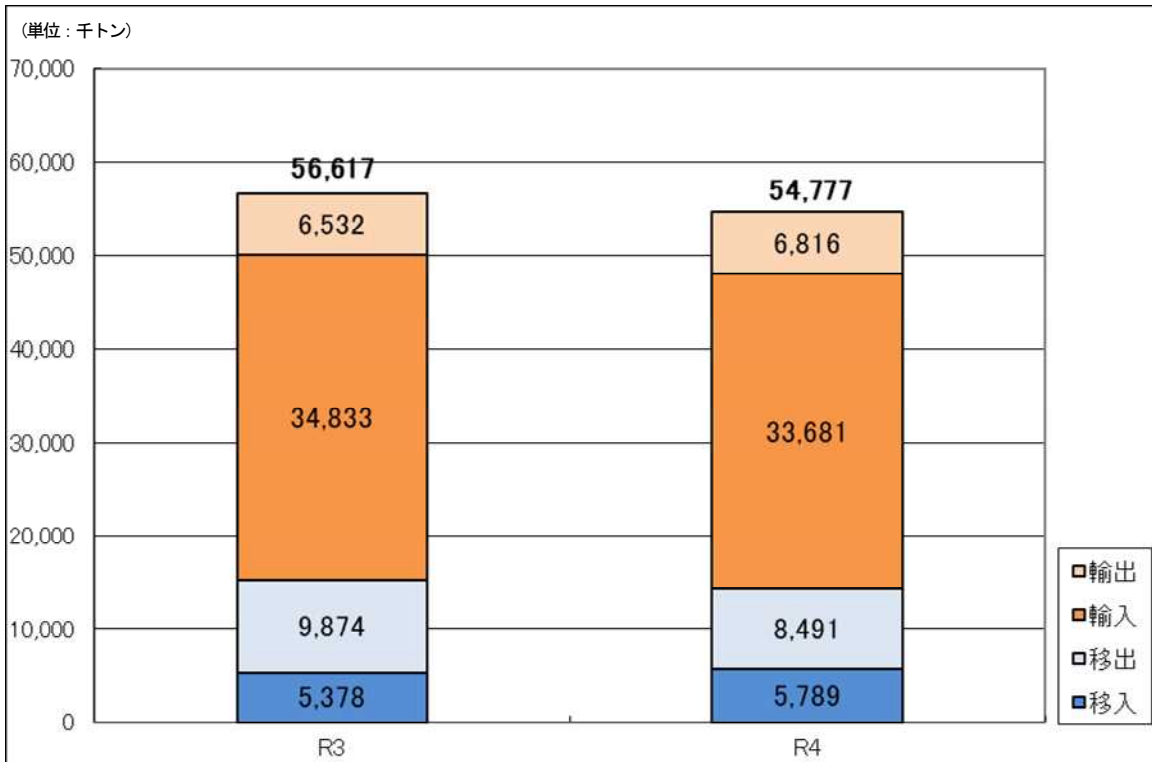
【船舶乗降人員数】



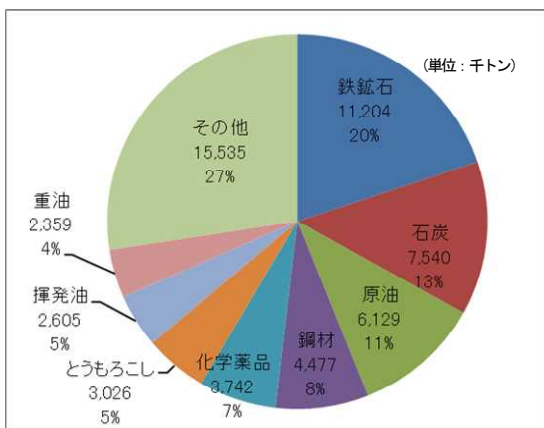
**鹿島港**

○取扱貨物量	: 54,777千トン	(前年比	△ 1,840千トン、	96.7%)
外貨	: 40,497千トン	(前年比	△ 868千トン、	97.9%)
輸出…	6,816千トン	(前年比	284千トン、	104.3%)
輸入…	33,681千トン	(前年比	△ 1,152千トン、	96.7%)
内貨	: 14,280千トン	(前年比	△ 972千トン、	93.6%)
移出…	8,491千トン	(前年比	△ 1,384千トン、	86.0%)
移入…	5,789千トン	(前年比	412千トン、	107.7%)

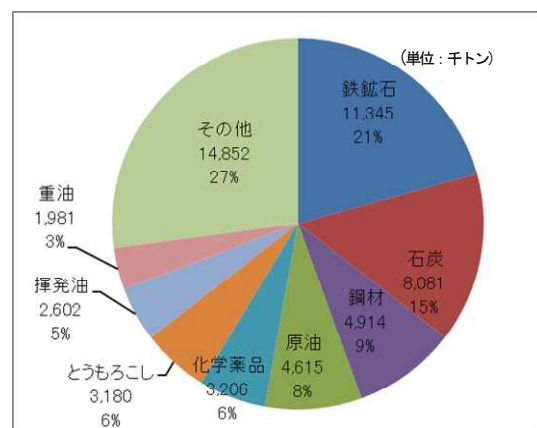
【取扱貨物量（輸出入・移出入別）】



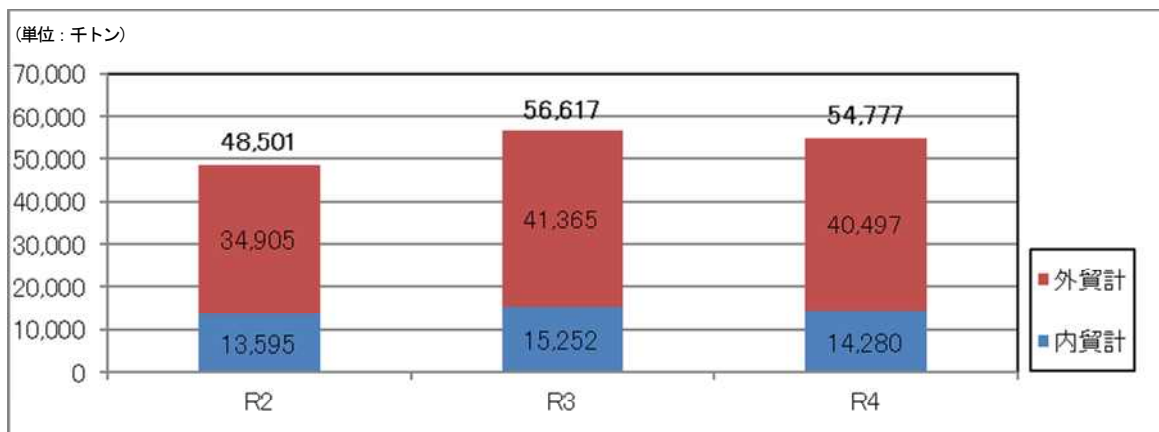
【令和3年 品種別貨物量（56,617千トン）】



【令和4年 品種別貨物量（54,777千トン）】

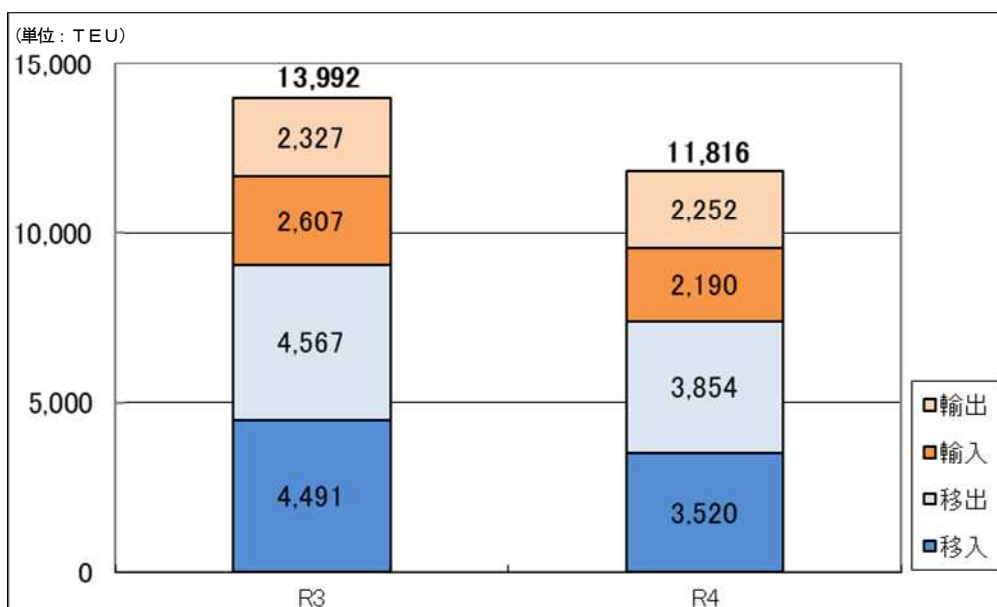


【令和2年～令和4年 貨物量の推移（合計及び外貿・内貿別）】



○コンテナ取扱数量	: 11,816TEU	(前年比	△ 2,177TEU、84.4 %)
外貿	: 4,442TEU	(前年比	△ 492TEU、90.0 %)
輸出…	: 2,252TEU	(前年比	△ 75TEU、96.8 %)
輸入…	: 2,190TEU	(前年比	△ 417TEU、84.0 %)
内貿	: 7,374TEU	(前年比	△ 1,685TEU、81.4 %)
移出…	: 3,854TEU	(前年比	△ 714TEU、84.4 %)
移入…	: 3,520TEU	(前年比	△ 971TEU、78.4 %)

【コンテナ取扱個数（輸出入・移出入別）】



※ TEU=20フィートコンテナ換算

※ 空コンテナを含む。

## 令和 4 年茨城県内各港の港勢（速報）

### ◎はじめに

「港湾調査」は、統計法(平成 19 年法律第 53 号)に基づく港湾調査規則(昭和 26 年運輸省令第 13 号)により、調査対象港湾で取り扱われる貨物量につき、各月及び各年を調査期間として行われるものです。

今回の発表数値は、令和 4 年 1 月から 12 月までを調査期間とし、県内の重要港湾[茨城港（日立港区、常陸那珂港区、大洗港区）、鹿島港]について港湾課において取りまとめたものです。

なお、数字の単位未満は四捨五入しているため、合計の数字と内訳の数字が一致しない場合があります。

### ◎各港の取扱貨物量

#### 1 重要港湾[茨城港（日立港区、常陸那珂港区、大洗港区）、鹿島港]計

取扱貨物量	92,407千トン	外 貿	53,527千トン
		(輸出	10,969千ト、 輸入 42,558千ト)
		内 貿	38,880千トン
		(移出	20,473千ト、 移入 18,407千ト)
うち公共ふ頭分	31,714千トン	外 貿	6,261千トン
		(輸出	4,258千ト、 輸入 2,003千ト)
		内 貿	25,453千トン
		(移出	12,432千ト、 移入 13,021千ト)

令和 4 年における県内重要港湾の取扱貨物量は 92,407 千トで、前年より 1,511 千トの減となった。外貿が 53,527 千トで前年より 1,296 千トの減、内貿が 38,880 千トで前年より 216 千トの減であった。

外貿について輸出入別にみると、輸出が 10,969 千トで前年より 1,529 千トの増、輸入が 42,558 千トで前年より 2,825 千トの減となった。

内貿について移出入別にみると、移出が 20,473 千トで前年より 1,247 千トの減、移入が 18,407 千トで前年より 1,032 千トの増となった。

公共ふ頭における取扱貨物量は、前年より 2,233 千ト増の 31,714 千トとなっている。

公共ふ頭における外貿は 6,261 千トで前年より 1,365 千トの増、内貿が 25,453 千トで前年より 868 千トの増となっている。

外貿について輸出入別にみると、輸出が 4,258 千トで前年より 1,270 千トの増、輸入が 2,003 千トで前年より 94 千トの増であった。内貿について移出入別にみると、移出が 12,432 千トで前年より 177 千トの増、移入が 13,021 千トで 691 千トの増となった。

## 2 茨城港（日立港区、常陸那珂港区、大洗港区）

取扱貨物量	37,630千トン	外  貿	13,030千トン
		(輸出	4,153千トン  輸入 8,877千トン)
		内  貿	24,600千トン
		(移出	11,982千トン  移入 12,618千トン)
うち公共ふ頭分	29,087千トン	外  貿	4,713千トン
		(輸出	4,119千トン  輸入 594千トン)
		内  貿	24,374千トン
		(移出	11,815千トン  移入 12,559千トン)

令和4年における取扱貨物量は37,630千トンで、前年より329千トンの増となった。外貿が13,030千トンで前年より428千トンの減、内貿が24,600千トンで前年より756千トンの増であった。

外貿について輸出入別にみると、輸出が4,153千トンで前年より1,245千トンの増、輸入が8,877千トンで前年より1,673千トンの減となった。

内貿について移出入別にみると、移出が11,982千トンで前年より136千トンの増、移入が12,618千トンで前年より620千トンの増となった。

公共ふ頭における取扱貨物量は、前年より1,974千トン増の29,087千トンとなっている。

公共ふ頭における外貿は4,713千トンと前年より1,197千トンの増、内貿が24,374千トンで前年より778千トンの増となっている。

外貿について輸出入別にみると、輸出が4,119千トンで前年より1,242千トンの増、輸入が594千トンで前年より46千トンの減であった。内貿について移出入別にみると、移出が11,815千トンで前年より144千トンの増、移入が12,559千トンで634千トンの増となった。

## 2-1 茨城港日立港区

取扱貨物量	5,893千トン	外  貿	1,919千トン		
		(輸出	125千トン	輸入	1,794千トン)
		内  貿	3,974千トン		
		(移出	2,371千トン	移入	1,603千トン)
うち公共ふ頭分	4,392千トン	外  貿	427千トン		
		(輸出	106千トン	輸入	321千トン)
		内  貿	3,966千トン		
		(移出	2,366千トン	移入	1,600千トン)

令和4年の取扱貨物量は、前年より1,508千トン減の5,893千トンであり、このうち外貿貨物量は1,919千トンで前年より1,459千トンの減、内貿貨物量は3,974千トンで前年より50千トンの減であった。

外貿貨物のうち、輸出貨物量は前年より45千トン増の125千トンで、主要取扱品種は完成自動車、非鉄金属であった。輸入貨物量は前年より1,503千トン減の1,794千トンで、主要取扱品種はLNG(液化天然ガス)、完成自動車であった。

内貿貨物のうち、移出貨物量は前年より35千トン減の2,371千トンで、主要取扱品種は完成自動車、非鉄金属であった。移入貨物量は前年より15千トン減の1,603千トンで、主要取扱品種はセメント、その他畜産品であった。

公共ふ頭における取扱貨物量は、前年より29千トン減の4,392千トンとなっている。

公共ふ頭における外貿は427千トンと前年より10千トンの増、内貿が3,966千トンで前年より40トンの減となっている。

外貿について輸出入別にみると、輸出が106千トンで前年より42千トンの増、輸入が321千トンで前年より32千トンの減であった。内貿について移出入別にみると、移出が2,366千トンで前年より27千トンの減、移入が1,600千トンで12千トンの減となった。

## 2-2 茨城港常陸那珂港区

取扱貨物量	16,368千トン	外  貿	11,112千トン
		(輸出	4,029千トン  輸入 7,083千トン)
		内  貿	5,256千トン
		(移出	1,850千トン  移入 3,406千トン)
うち公共ふ頭分	9,326千トン	外  貿	4,286千トン
		(輸出	4,013千トン  輸入 273千トン)
		内  貿	5,039千トン
		(移出	1,688千トン  移入 3,351千トン)
うちコンテナ貨物量	326千トン	外  貿	202千トン
		(輸出	59千トン  輸入 143千トン)
		内  貿	124千トン
		(移出	52千トン  移入 72千トン)

令和4年の取扱貨物量は、前年より1,144千トン増の16,368千トンであり、このうち外貿貨物量は11,112千トンで前年より1,031千トンの増、内貿貨物量は5,256千トンで前年より113千トンの増であった。

外貿貨物のうち、輸出貨物量は前年より1,201千トン増の4,029千トンで、主要取扱品種は完成自動車、産業機械であった。輸入貨物量は前年より170千トン減の7,083千トンで、主要取扱品種は石炭、木材チップであった。

内貿貨物のうち、移出貨物量は前年より14千トン減の1,850千トンで、主要取扱品種は製造食品、その他日用品であった。移入貨物量は前年より127千トン増の3,406千トンで、主要取扱品種は完成自動車、製造食品であった。

公共ふ頭における取扱貨物量は、前年より1,311千トン増の9,326千トンとなっている。

公共ふ頭における外貿は4,286千トンと前年より1,186千トンの増、内貿が5,039千トンで前年より124千トンの増となっている。

外貿について輸出入別にみると、輸出が4,013千トンで前年より1,200千トンの増、輸入が273千トンで前年より14千トンの減であった。内貿について移出入別にみると、移出が1,688千トンで前年より14千トンの減、移入が3,351千トンで139千トンの増となった。

取扱貨物量のうち、コンテナによる取扱貨物量は、前年より43千トン増の326千トンであり、外貿コンテナが前年より7千トン減の202千トン、内貿コンテナが前年より50千トン増の124千トンである。

また、コンテナの取扱数量は46,710TEUであった。

主なコンテナによる取扱品種は、輸出で動植物性製造飼肥料、化学薬品、輸入で産業機械、非鉄金属、移出で金属くず、非鉄金属、移入でゴム製品、木製品であった。



### 2-3 茨城港大洗港区

取扱貨物量	15,369千トン	内  貿	15,369千トン
		(移出	7,761千トン  移入 7,608千トン)
うちフェリー貨物量	15,357千トン	内  貿	15,357千トン
		(移出	7,754千トン  移入 7,604千トン)

令和4年の取扱貨物量は、前年より693千トン増の15,369千トンであった。

内貿貨物のうち、移出貨物量は前年より186千トン増の7,761千トン、移入貨物量は前年より508千トン増の7,608千トンであった。

総取扱貨物量の99.9%を占めるフェリー輸送貨物は、前年より698千トン増の15,357千トンであった。

船舶乗降人員数は、前年より39,382人増の150,481人であり、乗込人員は、前年より20,555人増の77,607人、上陸人員は、前年より18,827人増の72,874人であった。

### 3 鹿島港

取扱貨物量	54,777千トン	外  貿	40,497千トン
		(輸出	6,816千トン  輸入 33,681千トン)
		内  貿	14,280千トン
		(移出	8,491千トン  移入 5,789千トン)
うち公共埠頭分	2,627千トン	外  貿	1,548千トン
		(輸出	139千トン  輸入 1,409千トン)
		内  貿	1,079千トン
		(移出	617千トン  移入 462千トン)
うちコンテナ貨物量	114千トン	外  貿	47千トン
		(輸出	13千トン  輸入 34千トン)
		内  貿	67千トン
		(移出	59千トン  移入 8千トン)

令和4年の取扱貨物量は、前年より1,840千トン減の54,777千トンであり、このうち外貿貨物量は40,497千トンで前年より868千トンの減、内貿貨物量は14,280千トンで前年より972千トンの減であった。

外貿貨物のうち、輸出貨物量は前年より284千トン増の6,816千トンで、主要取扱品種は鋼材、砂利・砂であった。輸入貨物量は前年より1,152千トン減の33,681千トンで、主要取扱品種は鉄鉱石、石炭であった。

内貿貨物のうち、移出貨物量は、前年より1,384千トン減の8,491千トンで、主要取扱品種は鋼材、重油であった。移入貨物量は前年より412千トン増の5,789千トンで、主要取扱品種は石灰石、化学薬品であった。

公共埠頭における取扱貨物量は、前年より258千トン増の2,627千トンであり、このうち外貿貨物量は1,548千トンで前年より168千トンの増、内貿貨物量は1,079千トンで前年より90千トンの増であった。

外貿貨物のうち、輸出貨物量は前年より28千トン増の139千トンで、輸入貨物量は前年より140千トン増の1,409千トンであった。

内貿貨物のうち、移出貨物量は前年より33千トン増の617千トンで、移入貨物量は前年より58千トン増の462千トンとなった。

取扱貨物量のうち、コンテナによる取扱貨物量は、前年より12千トン減の114千トンであり、外貿コンテナが前年より2千トン減の47千トン、内貿コンテナが前年より10千トン減の67千トンである。

また、コンテナの取扱数量は11,816TEUであり、主なコンテナによる取扱品種は、輸出で染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品、鉄鋼、輸入で動植物性製造飼肥料、化学肥料、移出で、染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品、化学薬品、移入で化学肥料、染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品であった。